

## 例会

### 例会の開催方法

#### 開催日、開催時間、および内容

例会は、福井いきいき会設立時から、毎月最終木曜日を定期開催日と定め、午後1時から3時まで本会の会員や、外部の著名な方、高齢者に役立つ知識や経験を持った方々に、1時間程度の講演をしていただくものである。新年会を開く1月を除いて、一年に11回の講演会を行っている。

例会では、講演のほか、福井いきいき会のお知らせとして、今後の行事予告や、サークル活動のPR、旅行会や新年会の案内、今後の例会の講演予定などを、パソコンのパワーポイント画面で紹介している。

### 開催案内

例会の開催については、福井新聞のプリン欄に、福井いきいき会例会の開催予定として、例会が開かれる週の日曜日に掲載している。プリン欄の記載例は上図のとおりである。新規参加者の多くは、プリン欄の開催記事を見て、連絡先の福井

**いきいき会お知らせ**  
一生勉強 一生感動 一生青春  
12月の定例会は戦前戦中  
戦後を生き抜いた貴重な体験  
12月24日(木) 1:00~3:00  
場所 アオッサ707号室  
(問)090-4325-0463 福井

会長に電話される方が多く、会長から丁寧な本会の説明を受けたうえで参加されている。また、すでに参加されている方々が、知り合いの方や友人を誘って参加される例も多い。

### 会場

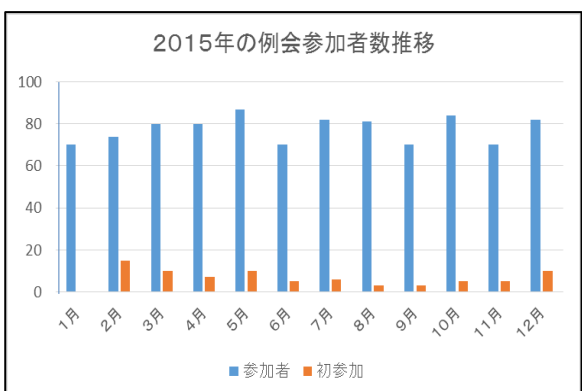
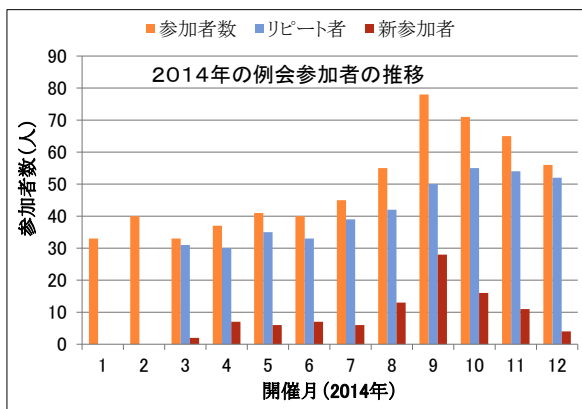
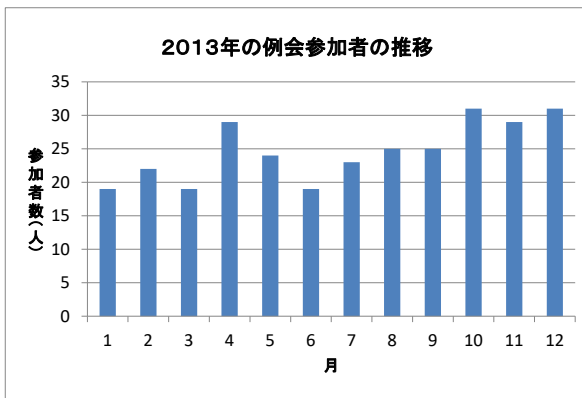
例会の会場は、福井駅東口のビル・アオッサ7階にある福井県の会議室706、707号室を使っている。当初は、参加者も30〜40人であったので、707号室のみでよかったが、参加者が増えた時点で、706、707室を使うようにした。申し込みは、3か月前からであるが、無料で借りられる部屋なので、福井会長が、ちようど3か月前の午前9時に電話で予約をしている

### 参加費

高齢者がお金を使わないで講演を聞けるように、参加費はいただかないことにしている。ただし、茶菓子代として、当初は200円をいただき、ペットボトルの緑茶と、菓子類をお渡ししていた。2年目ごろからは、100円とし、緑茶だけを出すように変更した。

### 会員登録

例会の参加者には、初回参加時に会員登録として、氏名、住所、電話、趣味・特技などを書いていただいたが、サークル活動を開始した2年目中ごろからは、氏名と連絡先の電話番号のみを書いていただくことにした。



会員名簿は毎月更新している。3年目を終えた時点で、登録している人は、約250人に達している。

### 例会の演題、講師の選定法

設立当初は、福井会長が発足時のメンバーと相談のうえ、講演題目と講師を決めていたが、2年目に入ってから会員も増え、より活発な活動を行うためにサークル活動を開始するのに合わせて、運営委員会を組織した。講演題目と講師は、この運営委員会で運営委員からの提案を基に審議・決定することになっている。選定の基本は、高齢者にとって勉強になり、役立つ内容を選ぶようにしている。

### 例会の実績

発足から3年間の例会の参加者数は、前ページの図に示すとおりである。3年目からは、コンスタントに80人前後の参加者があることがわかる。写真は、例会の様様を示す。

### 例会の講演題目と講師

毎月の例会の講演題目と講師を下の表に示す。また、講演の詳細については、例会の講演と講演の概要の項で述べる。

2014年の例会講演

| 開催月 | 講師 | 演題              |
|-----|----|-----------------|
| 1   |    | 新年会             |
| 2   | 吉岡 | ハイジャックに遭遇して     |
| 3   | 井上 | ロボットと人間の共生      |
| 4   | 中村 | 認知症対策           |
| 5   | 茂  | 東尋坊—いのちの灯台守—    |
| 6   | 石田 | 戦争を振り返って        |
| 7   | 向川 | 高齢者の特徴とボランティア活動 |
| 8   | 折尾 | 元商社マンのマル秘裏話     |
| 9   | 井上 | 福井の町の始まり        |
| 10  | 平林 | 健康に関する講演        |
| 11  | 福岡 | 船の旅—航路と寄港地—     |
| 12  | 濱本 | 私と関わった人たち       |

2013年の例会講演

| 月  | 講師       | 演題                           |
|----|----------|------------------------------|
| 1  | 鈴木       | 現在の政治を取り巻く状況                 |
| 2  | 松原<br>中村 | 北陸新幹線について<br>老後の過ごし方/高齢者向け住宅 |
| 3  | 吉川       | 太陽光発電について                    |
| 4  | 寺岡       | 輝く命の人間学                      |
| 5  | 田中       | 地方の活性化と、福井県の在り方              |
| 6  | 絹井       | 腰痛の解消法                       |
| 7  | (議論)     | 今後の進め方について、議論                |
| 8  | 小林       | あるがままに                       |
| 9  | 前田       | 手相について                       |
| 10 | 安本<br>小泉 | ガールスカウト活動                    |
| 11 | 濱田       | 戦争の真実                        |
| 12 | 富士       | 海外生活と旅行                      |

2015年の例会講演

| 開催月 | 講師  | 演題                        |
|-----|-----|---------------------------|
| 1   |     | 第2回 新年会                   |
| 2   | 中村  | 介護保険の改定                   |
| 3   | 佐々木 | 細川ガラージャ どんな人              |
| 4   | 中村  | 介護保険について Part2            |
| 5   | 田中  | 吾が漫画的人生                   |
| 6   | 塩谷  | 保育一筋に天職を全うできた喜び           |
| 7   | 析谷  | 福井の言葉で福井の昔話を              |
| 8   | 盾   | 悪徳商法に気をつけよ                |
| 9   | 大野  | 親子関係をはぐくむ方法、<br>私の趣味はボケ防止 |
| 10  | 古道  | マイナンバー制度と年金について           |
| 11  | 寺岡  | 人類に未来はあるか？—日本の使命について—     |
| 12  | 濱田  | 戦前・戦中・戦後を生き抜いて            |



## 例会講演の概要

以下に、例会ごとの開催日、参加者数、講師名、演題、および講演要旨を記す。

### 第1回例会

開催日…平成25年1月31日(木)

参加者…19名

講師…元福井県議会議員 鈴木晃治氏

演題…現在の政治を取り巻く状況



今回は、初めてということで、初めに発起人の福井氏が、仮称(いきいき会)を開催するに至った経緯を説明し、これからの会のあり方について皆さんのご意見を頂戴したいとの挨拶があった。

講師の鈴木晃治氏からは、現在注目されている時事問題・領土問題、原発、新幹線についてなど様々な問題についてお話をいただき、その後活発な意見交換がなされました。

### 第2回例会

開催日…平成25年2月28日(木)

参加者…22名

講師…社会福祉法人寿の会 松原 信也氏

および 当会会員 中村 達夫氏

演題…「北陸新幹線について考える」、および

「老後の過ごし方―高齢者向け住宅」

初めに、北陸新幹線に関する様々な問題の調査・研究をしておられる福井市の松原氏から簡単な説明がなされた。メリット、デメリット双方を福井県民の立場から検討出来る様々な数値を具体的に示しながらの説明であった。一応着工は決定されているが、在来線がどうなるかという問題、最短時間を利用する場合は料金が高くなるということや、乗り継ぎ回数が増えるという、ことにも触れて頂いた。

二つ日のテーマ「老後の過ごし方―高齢者向け住宅」は、現在、様々な高齢者住宅事業に携わっておられる当会会員中村氏の講演で、定年後が長くなった今、如何に健康で、安心に暮らせるかは、人生のクオリティを左右する重要な問題であるとの指摘があり、従来の「老人ホーム」という暗いイメージを脱却し、新しい暮らし方があることを示唆された。介護事業所併設型住宅、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム(特老)、グループホーム、ケアハウス、有料老人ホームなど、能力に応じた住環境の選択が可能な時代となり、自立した生活を維持するために、元氣なうちに検討しておく必要性を強調された。

### 第3回例会

開催日…平成25年3月28日(木)

参加者…14名

講師…エコプラン福井事務局長 吉川千秋氏

演題…「太陽光発電について」

2011年の福島原発事故により、私たちのエネルギーに対する意識は大きく変わった。太陽光発電は誰にでも、何処でも出来るエネルギー源である。「雪の降る地域での太陽光発電」については、実際の発電量、施工費用、採算性を前向きに検討すべきであろう。また、電気を

取りまく様々な問題（風力発電・水力発電・電力の自由化・海外の電力事情・e t e）についても同様だ。私たちは太陽熱と太陽光を混同しがちであるが、北陸でも年間1, 100 kWh程度の発電量が可能であり、曇りや雨の日でも明るさに応じて発電することも念頭に置くべきである。

他に、エネルギーの地産地消について、県内での取り組みや市民共同発電所の普及活動や事業モデルについても話があった。再生可能エネルギーの地産地消により、地域資源・地域経済・地域還元が可能となることにも触れて頂いた。

#### 第4回例会

開催日…平成25年4月25日(木)

参加者…29名

講師…東京医科歯科大学名誉教授

寺岡 弘文氏

演題…輝く命の人間学 エネルギー問題と放射線が及ぼす影響度

人間の多様性は、受精によるDNAの組み換えがもたらすもので、人間は死んでこそ世代交代としての意義がある。人を形造る細胞のなかのDNAが、細胞分裂によりコピーされていく。その間さまざまな要因で切断され、また修復さ

れるのである。しかし、数が少なくて修復機能が検知できないほどのわずかなDNAの切断は、かえって修復されずに細胞分裂を繰り返すと、長年のうちに癌化を引き起こす可能性がある。したがって化学物質や、低線量の放射線被爆もこのような可能性を考えると健康への影響を無視できない。

#### 第5回例会

開催日…平成25年5月23日(木)

参加者…24名

講師…拓殖大学名誉教授

田中 一昭氏

演題…地方の活性化と福井県のあり方

福井県は初めての訪問で楽しみにしてこられたそうですが、赤字続きであった国鉄や、電公社の民営化（NTT）の2大改革の実現の経緯やその絶大な効果のお話から、近年の道路公団の民営化、道州制構想の問題点、地方の活性化は国の出先機関を廃止してその事務と事業を地方に委譲することが肝要であること、農業の近代化など多くの課題についてお話をされた。

ご講演の後、参加者からは、地方行政の問題や、教育、大学研究者の任期制の問題など、身近な問題に対して先生のお考えをお聞きする

質問も活発に出されて、時間が足りないほどであった。

#### 第6回例会

開催日…平成25年6月27日(木)

参加者…19名

講師…当会会員 朝井 英明氏

講演題目…腰痛の解消法

長年直らない首、肩、腰のこりや痛みは『背骨の多裂筋（腰椎の骨ぎわ筋）の衰えである』。この衰えをカバーする方法に『寝て行うトレーニング法』が開発された。私も長年めまい、腰の痛みなどに悩まされていたが、この方法で改善された。同じく腰椎に悩まされていた主宰者の福井氏が半信半疑で実践したところ確かな効果に驚き、腰痛や、肩、首の痛みに悩まされているであろう参加者たちの健康に役立てば幸いと今回の講演にいたったわけである。

寝トレは、背骨の曲がりを矯正する治療法で、2本の弾力性のあるチューブの上に背中を乗せて、ゆつくりと腰を左右に動かしたり、背骨をチューブに押し付けたりするのが基本動作である。このトレーニングにより、多裂筋が強化され、背骨の曲がりの矯正につながっていく。チューブや解説書（トレーニング法）などは、(株)マキノから販売されているが、解説書にはい

るいろいろなトレーニング法が紹介されているので、それらを忠実に実行するのが良い。

## 第7回例会

開催日…平成25年7月25日(木)

参加者…23名

今回は特別な講師をお招きせず、会員同士で本会を今後どのように進めていくかの議論や、本会の規約案の紹介、役員の確認と承認などを行った。

## 第8回例会

開催日…平成25年8月29日(木)

参加者…24名

講師…当会会員 小林 久子氏

演題…あるがままに

小林さんは、ご自身の生涯学習会や若い世代の考(幸)福塾などの経験などから、グループワークで話を聞き、意見を述べるなど皆で話し合うことが重要だと思つて、福井新聞に掲載された記事のほか、福井童謡の会の資料を、生き生き会用の小冊子として紹介された。

次いで、資料の中にあつた「故郷の廃家」、「紅葉」、「故郷」などの懐かしい童謡を皆で口ずさんで楽しんだ。話題は、消費税増税の課題や、国の借金1000兆円の問題、年金などにも及

び、国の将来がどうなっていくのか、若い世代に残した形の借金は返せるのかななどの問題に触れた。

## 第9回例会

開催日…平成25年9月26日

参加者…25名

講師…元福井銀行員 前田 行雄氏

演題…手相について

これまでに約3万人の手相を実見され、幾多の手相に関する内外の書物を読破され、研鑽も積まれた氏の話であつた。

手相はインド・中国を中心に5千年の歴史があり、アリストテレスも本に書いている。金持ちか貧乏人かは手相をみれば簡単に見分けがつき、実際の銀行業務に役立った。左手の手相は親からもらったもので、右手は自分で作る手相であり、手相は過去の歴史や心の状態が現れてくるもので、基本線はそれほど変わらないけれども、枝分かれ部分は変わる。食生活の改善やストレスを貯めないことも含め、気持ちをプラスにして生きていくことが手相を良くすることに繋がることを肝に銘じてほしい。

## 第10回例会

開催日…平成25年10月31日(木)

参加者…31名

講師…ガールスカウト福井県指導員

安本 敏子氏、小泉 時子氏

演題…ガールスカウト活動

講演内容は、ガールスカウトの歴史、ボーイスカウトとの関係、福井県における支部構成(22支部)、会員数(幼稚園から高校生まで約850人)、活動の方針、3つの約束事と8つの掟、子供たちの成長などガールスカウト活動の全容に及んだ。

ボーイスカウトもガールスカウトも1910年にひと組の夫婦によって作られた。活動方針はなんと言つても体験学習であり、キャンプは小さい子から高校生までのグループ活動としている。キャンプという野外活動は自宅では経験できない体験学習ができること、年長者はリーダーとして思いやりの心が生まれること、長く活動してきた子供には確かな成長が見られること、甘やかした指導はしないことなど、子供たちがある時、卵が孵化するように成長する瞬間がある。言葉使いまで変わっていくものである。最近の動向としては、とくに中・高校生の参加者が他のお稽古事や学校でのクラブ活動優先などの事情のため減少してきているのが残念である。本来別の活動であるボーイス



カウトが、女性も加えるケースが出てきたなどの悩みもある。

## 第11回例会

開催日…平成25年11月28日(木)

参加者…29名

講師…当会相談役 濱田 芳雄氏

講演題目…戦争の真実

日本がシンガポールを落としたときに戦争をやめていれば戦勝国で終わったはずだ。昭和16年当時の内閣が、重要物資が米国75分の1しかない国力を知らながら天皇陛下に無謀な戦いを決断させた。私が所属した部隊は、安兵団で福井県出身者が主力、戦場では他県出身者の部隊より格段の精鋭であった。入隊令状を受け取ると歓呼の声で送られ、敦賀連隊へ入隊してからは、毎日6時起床で始まる厳しい訓練や上等兵たちによるしごきの数々など、外地に送られるまでの生活は大変なものだった。一見意地悪ばかりされたと思っていた万年上等兵も、戦地に派遣される朝には、枕元にきちんと軍服をそろえてくださり、「死ぬのを急いだらだめだよ、帰ってくるのがお役目だよ」と握手をしてくれたのには感激した。「いじめ」と「しごき」とを混同してはならない。

敦賀連隊所での出征のときは、古年兵に見送られて滋賀へ集結した。滋賀では53師団、119連隊が組織され、私は中隊での兵士の戦死、入院などの記録をとる班に配属された。ついで汽車で広島に到着、二艘の輸送船で海外へと行くことになったが、輸送船の中は、銃器、馬、兵士がいっぱいで、兵士の命より馬や銃器が大事にされるような環境であった。船は、途中敵の攻撃を受けながらも無事シンガポールに到着した。

部隊は、シンガポールからタイ経由でビルマに赴き、そこでインパール攻撃隊（全滅した）と、私が所属したビルマと中国の国境守備隊に分かれた。この部隊は、中国雲南省の芒市へ夜通し雨中行進で到着、そこで英国軍と中国の正規軍らを相手にした輸送路を抑える任務に付いた。夜明け前襲ってくる中国兵、パチンパチンという弾の音、ピューという音を聞きながらの戦場で死者が増えていった。

私も足の甲に銃撃を受け、必死に止血をしたところで氣を失った。気がついたときには、野戦病院にいた。芒市での戦いの後、部隊が再編成され、龍陵というところに向かったが、ここで部隊は全滅した。その後、英国軍がせめて来る中、私たちは野戦病院から退却したが、歩けない兵士には手榴弾を持たせ、重症の兵士には

注射を打ったそう。中国からビルマに入ったところで終戦となり、英国の捕虜となったあと、帰国することができた。

## 第12回例会

開催日…平成25年12月19日(木)

参加者…31名

講師…当会会員 富士 佑子氏

演題…海外生活や、旅行

富士さんは結婚後、商社勤めのご主人の海外勤務に同道した7年間のフランス滞在をはじめとして、数々の海外旅行を経験されました。その中から珍しい旅行体験、ボランティアとして行っている健常者でない方の海外旅行のお話などをされました。

ヨーロッパ旅行では、インターネットで申し込めるウィークリーマンションを利用すると、パリでも1週間7万円の費用で5人が宿泊できることや、現地では必ずタクシー代に払う小銭とホテルの住所を携帯すること、手袋、サングラス、双眼鏡、国際カードの持参も役立つこと、英語が共通語であること、右側通行や女性の夜間一人歩きは危険なことなどを紹介されました。

また、もともと印象深かった海外旅行として、アフリカケニアへの旅行をあげられた。キリン、

フラミンゴなど動物の大群との遭遇、ライオンが獲物を捕らえて食べる瞬間の目撃、マサイ族の歓迎の踊り、気球搭乗体験など話され、これはお勧めのツアーですとのことでした。

### 第13回例会（新年会）

平成26年1月30日（木）

今月は、第1回の新年会を行いました。

### 第14回例会

開催日…平成26年2月27日（木）

参加者… 40名

講師…当会副会長 吉岡 芳夫氏

演題…ハイジャックに遭遇して

今回の講演は、吉岡副会長が30年前に遭遇したハイジャック事件の話であった。出張3日目の朝8時にドイツのフランクフルトからパリに向かった便が、リビヤの首都トリポリへ行くと脅すアラブ系の青年にハイジャックされた。本人は業務用の資料を見ていたので気づかなかった。前の席の人から何処へ行くのかと聞かれて、パリだというところと今ハイジャックされたというので驚いた。スチワードを呼んで事情説明を求めたところ、ハイジャックされ犯人は爆弾を持っていてリビヤのトリポリへ行けと

命じているとのこと。大変なことになったと実感した。

飛行機は燃料不足の理由でジュネーブ空港に着陸した長時間の拘束となった。話の内容は、万が一ことを考えて、遺書を書いたこと、爆発が起こったときの逃げ方を真剣に考えたこと、女性や子供の解放、機内の様子、犯人の様子、スチワードや機長の乗客への対応、飲料水の差し入れ、犯人逮捕などであった。ジュネーブ空港に居た機動隊の精鋭による機敏な対応で犯人の逮捕にいたった。国内ではハイジャック事件が報道され、日本人はヨシオカヨシオが一人搭乗とNHKのニュースで流された。知らせを受けた会社が直接留守宅に電話をしたので、家族が大変心配した。

### 第15回例会

開催日…平成26年3月27日（木）

参加者… 33名

講師… 当会会員 井上 清一氏

演題…「ロボットと人間の共生」

ロボットの開発はされたものの、原子炉事故は想定外の出来事とされ、いざ福島原発事故が起きると、対応は実に厳しいものとなった。

ホンダの二足歩行ロボット『アシモ』など、日本での産業用ロボット市場は世界の半分以

上の規模を占めている。しかし、機械の故障は必ず起こるとされ、使用時間と故障率の推移（故障率曲線）は、部品の組合せ如何でその二乗に比例して複雑化する。機械の顕著な複雑化に對して、これを扱う人間が少なく、世はいつも成功例だけを見て、失敗を許さない。必然的に萎縮ムード現象を醸し出す。

人間社会とロボットとの融合は、多くの課題を抱えながらも、真に求められる福祉分野等において、グレイゾーンを認めながらも長期的視野で積極果敢に研究開発して行かなければならない。この際、考え方として、デジタル、アナログの中間があつていい。

ここに、機械と人間の相関性が指摘され、人としては簡素に生きる事が一番の贅沢であると考え。本会としての生き方としても重宝がられるであろう。

ブータンでの欲を出さない生き方が幸福の尺度とされているのにも共通する。

### 第16回例会

開催日…平成26年4月24日（木）

参加者… 37名

講師…当会会員 中村 達夫氏

演目…「認知症について」

認知症は誰にも起こりうる脳の病気で、その数は年々増加すると予想されている。

認知症になると、人との関係が損なわれ本人はもとより、家族も大変な苦勞をすることになるが、認知症は病気なのだから早く発見して治療をうけることが大事である。なぜなら、脳外科的な処置で劇的に良くなることもあるし、アルツハイマー型などは薬で進行を遅らせることもできる。

（講演の最初に、認知症とはどういうものかについて約10分間のビデオと、当会会員山口さん制作の紙芝居を見る）

認知症には、中核症状と周辺症状がある。中核症状には、さつき食べたことも忘れる記憶障害や、徘徊などの見当識障害、判断力低下などがある。

一方、周辺症状とは、妄想、うつ、徘徊、暴力といった家庭環境、仕事、性格などに起因して起きる症状である。

認知症の人への対応の基本姿勢は、（1）驚かせない、（2）急がせない、（3）自尊心を傷つけないことであり、具体的には、まずは見守る、余裕を持つて対応する、声掛けは一人で行い、後ろから声をかけずに、話すときは目線を合わせて優しく、穏やかにはつきりとした口調

で話かける、相手の言葉にも耳を傾け、ゆっくり対応することが肝要である。

## 第17回例会

開催日…平成26年5月29日（木）

参加者…41名（他に 県庁長寿福祉課から2名、社会福祉協会から1名、県会議員1名が視察参加）

講師…NPO法人 心に響く文集編集局

理事長 茂 幸雄氏

### 演題…東尋坊 命の灯台守

東尋坊での自殺防止活動10周年を迎えたが、この間救った命は490人に上る。東尋坊は自殺の名所ではなく自殺の多発場所なのであつて、活動の目的は自殺防止ではなく、人命救助である。

東尋坊での自殺者数は、過去30年間で650名にもなっている。この10年間でも250名が亡くなられ、その70%は働き盛りである。そして、自殺の場所は、東尋坊周辺の1.5kmの海岸線でわずか3箇所だけである。

自殺は午後8時から12時までの間に行われており、その90%は県外からきた人で、所持金はほとんど持っていない。おそらく午後3時頃には現場に来て、5時間ほど迷ったうえでの行動であろうと推測される。保護された人は一時

借り家に收容され、生活費も提供されるが、早い人は1週間で元氣になり、再出発していく。このような活動は、自殺防止というより人命救助に当たると言えるだろう。

パトロールについて言えば、毎日3人以上が日没すぎまで1周り1時間半ほどかけてパトロールをし、挙動のおかしい人がいればさりげなく声をかける。本当に死のうとしている人は、声をかけた途端顔色が変わるのがわかる。

私たちは問題のあるところはどこへでも出かけていく。私が何とかしてあげる。これが大切である。心に悩みを持つ人は増えている。精神科医は、うつ病などの治療薬を多量に処方するが、病院で短時間診察して薬を処方するやり方では直らない。

## 第18回例会

開催日…平成26年6月26日（木）

参加者…40名

講師…元建設業界役員 石田 武郎氏

### 演題…戦争を振り返って

父は出征の時には3つのお守り、即ち、武運を祈る寄せ書きの日章旗、千人針、赤いふんどしを持って軍隊にはいった。親族、町内の人たちに盛大に見送られての出征であったが、家族にとっては涙の出征見送りであった。



父は、敦賀の6213部隊に入り、10日後には、戦地の中支に渡ったが、戦地で病を患い、病氣療養のため送還された。

昭和17年12月、軍から面会ができるとの知らせを受け、九州の病院で死の直前の父に面会出来た。面会に行く途中、広島では空襲警報の予行演習として、全員が下車して防空壕に入るハップニングまであったが、危篤の父に会うことができた。しかし3日後になくなり、故郷の松岡で町葬をしていただいた。その日は敦賀が空襲を受け、その10日後には福井が空襲を受けた。松岡からは、福井の空襲の様子が花火のように見えた。

戦争が激しくなるとともに金属が不足し、実家の工場の80台の織機を全部供出させられた。そして、昭和20年8月15日の玉音放送で、終戦を知らされた。戦後は、食糧難で買い出しに出かけ、捕まったりもした。民衆の貧困の時にも、軍の上層部は衣食に不自由はなかったようだ。

その後の福井地震で、松岡は大火に見舞われた。さらに追いかけるように台風の被害も発生した。そのあと中学では、軟式野球をするようになり、経済的な困窮の中でも、母が高校進学をさせてくれた。進学した高校でも野球をし、就職後も野球を続けられた。スポーツは、スキ

ーの指導員も努め20年間民生委員も務めることができた。

## 第19回例会

開催日…平成26年7月31日(木)

参加者…45名

講師…当会会員 向川 佐多男氏

演題…高齢者の特徴とボランティア活動

私は(一生勉強、一生感動、一生青春)のキヤッチフレーズに心をひかれて本会に入会した。今はボランティアによるチャイルドラインという電話相談の活動をしている。昼と夜の当番制で5〜6人ずつ全国の子供さんからの悩み相談をうけているが、孤独感を感じている子供が多いようだ。相談例で最も多いのは、男性なのに女性の行動をとるといような性同一性障害の相談である。回答し難い電話相談もあり、いらだちを感じることもある。

高齢になると元々あった当人の人格、特徴が際立ってくる。それは、わがままではなく駄目でもない。しかし、それまでの蓄えがある。培ってきた知識、能力を生かし、いきいきした暮らしを続けたいという願いでいきいき出来る。職場や、家族との会話も少なくなっているが、話し合うことがいきいき会のポイントと思う。

## 第20回例会

開催日…平成26年8月28日(木)

参加者…55名

講師…当会会員 折尾 敏和氏

演題…元商社マンのマル秘裏話

私は舞鶴市から福井大学に進学し、卒業後ニチメンの福井支店に配属された。繊維関係の商社でありながら、非繊維部門の営業開拓を命ぜられ、一人で新しい分野の営業開拓に奮闘した。会社が目をつけたのは、リースという業務で、徹底的にリース業を勉強した。私は、県内で利益の出ている優良企業を調べ上げ、訪問してリースによる設備の導入を持ちかけた。第1号のオリックス社のリースには、担保なしで設備を貸した。

第2号のリースは、揚原織物の数億円の設備導入、3番目は、松文産業が栗東に工場を作ったときで全設備がリースによる導入であった。

この後、多くの企業との競争入札に携わる過程で汚職事件に巻き込まれ、大阪府警で厳しい取り調べを受けることになったが、受注でお世話になった方々に迷惑がかからないよう頑張りと、結果として会社役員から大きな信頼をえることにもなった。

もうひとつの大きな仕事は、富山の高岡にある宗教法人に水晶の弥勒菩薩像を納入する仕

事だった。等身大の水晶などあるはずもないが、ドイツに人工水晶があるので、これを使うことを提案した。しかし、水晶の加工ができる業者は少なく、しかも希望に沿う弥勒菩薩像が作れるかなどの問題もあったが、各界多くの職人の協力があつて2年がかりで完成を見た。この他、ラビッド染色機の販売、発電可能な蒸気も利用する自家発電設備の開発、外国からの木材の輸入業務などに汗を流した。

## 第21回例会

開催日…平成26年9月25日(木)

参加者…78名

講師…当会会員 井上 清一氏

演題…福井の町のはじまり

(1) 1575年 柴田勝家が織田信長より49万石の北の庄城主として命をうけてより、1583年秀吉に破れるまでの勝家8年間の生きざまと当時の町について

(2) 朝倉氏が栄えていた頃の中世の町、府中、北の庄の町について

(3) 柴田勝家以前の福井の町、慶松家と橘屋。

まず、信長より与えられた柴田勝家の8年間の任務は、上杉謙信の南下阻止と加賀の一向一揆の鎮圧とされ、この為、北の庄城の築城、検

地、刀狩り、座の保護と楽市楽座、半石半木の北の架橋が対策とされた。1578年、謙信の49歳での死は、勝家にとっては順風となつてゐる。

勝家は福井の町をつくった人であり、織田家を最後まで守ろうとした人である。また、1600年徳川家康の次男坊結城秀康は68万石の北の庄城主となっている。

次に、朝倉氏が栄えていたころの越前の町にしても、勝家以前の福井の町にしても、町は境界の地に発展するものである。理由は、境界では、領主の私的で排他的支配が行われていくためである。

## 第22回例会

開催日…平成26年10月30日(木)

参加者…71名

講師…当会会員 平林 幸二氏

演題…健康について

まずご自身がフィッシャ症候群やギランドル症候群といった病気を患い、それを克服された経験をもとに、生活習慣病などへの対応について、病気の原因やよく効く薬などを紹介された。

死亡率の高い生活習慣病は、癌、心疾患、脳血管、肺炎であり、頭痛、いびき、胃痛、腸内

ガス発生などのイエローカードを見逃しがちである。癌については、抗がん剤や放射線治療もあるが、癌幹細胞が生き残ると再発する。スルフアサラジン(臨床試験中)が効果的で、ネットで購入可能だそう。アルツハイマー病など脳の病気には、NHKで放送されたシロスタゾールという脳梗塞の再発防止薬も有効とのこと。体や顔の歪みも要注意。腰の痛みには、寝てするトレーニングが効果的である。動脈硬化は舌の裏を鏡でみてピンクならOKだが紫色だと危ない。大腸内のガス発生は、ミネラル、ビタミン、繊維質の不足が原因として挙げられる。燐が悪玉、酵素をつくるミネラルが良い。玄米は健康に良いが、木槌で叩くなどしておくと美味しく食べられる。栄養補助食品としては、エビオス錠が良い。

## 第23回例会

開催日…平成26年11月27日(木)

参加者…65名

講師…当会会員 福岡友江氏

演題…船の旅―航路と寄港地―

(講演は、旅を記録したDVDの映像を見ながら進められた。)

まず、航路の紹介から始まり、乗船後の安全教育、船内での水先案内人による寄港地の紹介、

各種講演や運動会、乗客のファッションショーといった各種催しなど、航海中の船上での生活について話された。

アラビア海のソマリア海賊の出る海域の航海では夜間に明かりが漏れないようにキャビンの窓に鉄板を張り、さらに自衛隊の船3隻とヘリコプターの護衛のもと航行したこと、180kmのスエズ運河の通航風景、水路の水位を調整しながら進むパナマ運河の航行など、また、ブルネイ国のイスラム教王様と皇太子の素晴らしいモスク、映画アラビアのローレンスの最終地になったアカバや、石山に掘り込まれた宝物殿などがあるペトラ遺跡、トルコではクレオパトラが歩いたというエフェソスの古代都市、おなじみの白い建物と青い色が美しいエーゲ海のココス島、スペインのアルハンブラ宮殿、1000体ものモアイ像が立ち並ぶイースター島の風景、「地上最後の楽園」ともいわれる環状のサンゴ礁で囲まれた美しいボラボラ島の風景など、21か所の寄港地の主なところを紹介された。

## 第24回例会

開催日…平成26年12月18日(木)

参加者…56名

講師…当会会員 濱本 たけ子氏

## 演題…私と関わった人たち

濱本さんは、小さな中学校の教員を皮切りに、マンモス中学校、養護学校と教育一筋に現役時代を過ごされた。講演では、最初の中学校で幾多の逆境に耐えて、最後には助産婦になりたいという初志を見事貫いた女生徒の話、1年生だけで400人もいるマンモス学校での思い出、養護学校で肢体は不自由だが成績優秀な生徒で、普通高校卒業後はさらに専門学校へ進学した生徒の話、更には重複障害を持つ寝たきり状態の生徒の話、自閉症の生徒、知的障害・精神障害を持つ生徒、また、境界線の生徒への対応など、教師としての苦労を話された。

定年退職後は専門学校に入ってヘルパーの資格を取ると、老人ホームでの介護、デイサービス、生活ヘルパーなどに従事し、乞われれば今なお要介護者の自立に向けた手伝いをする一方で、福井市の福祉委員としても活躍してもらえる。

## 第25回例会(新年会)

平成27年1月29日(木)

今回は、第2回目の新年会を開催しました。

## 第26回例会

開催日…平成27年2月26日(木)

参加者…74名

講師…当会会員 中村 達夫氏

## 演題…介護保険の改訂

日本は本格的な高齢化社会を迎えるにあたって、それまでは医療と福祉(介護)と一緒にカバーしていた医療保険(健康保険)が行き詰るとして、2000年に医療保険と介護保険を分離した政策がとられた。改訂の骨子は、特別老人ホーム、老人保健施設、及び療養病床の従来の施設型サービスから、極力施設サービスのための建設はやめて、在宅での介護を中心にするとのことである。介護保険の適用を受けるためには、家族が、市町村の窓口で認定の依頼をする。それを受けて、専門の人が訪問や対面で介護保険の対象になるかどうかを調査する。合わせて、かかりつけの医師による意見書ももらって、要介護認定を下す。認定には、程度により要介護1から5までに区分され、それに見合った介護サービスが受けられるようになる。

介護予防サービスとしては要支援1と2があったが、改訂では給付対象からはずれる。介護保険料は、年金から自動的に差し引かれている。介護サービスを受けた時、かかった費用の10%が個人の負担になる。残りの90%は、介護保険と税金から支払われる。保険から支払われる概算金額(月額)は、要介護1で15万円、

要介護2では20万円と5万円ずつ増え、最も重い要介護5では35万円になる。ちなみに要介護3以上は全介助が必要なレベルであるが、胃ろうなどの医療行為があるとさらに高くなる。

## 第27回例会

開催日：平成27年3月26日（木）

参加者：80名

講師：当会会員 佐々木 晴夫氏

演題：細川ガラシーシャどんな人

明智光秀は、1556年、居城であった美濃の明智城を斉藤道三父子に攻め落とされて敗走し、落ち着いた先は、越前丸岡町の長崎というところで、称念寺の門前であった。妻子は称念寺の寺地に住まわせ、僧と親しく交流していた。ここで、5年ほど武者修行や鉄砲術を学び、福井市に転居後は4年ほど越前の大明朝倉義景につかえることができた。しかし、経済的には貧しく、朝倉義景の重臣たちの連歌の会の酒肴の用意をする当番となった時には、夫人（ヒロ子）がひそかに髪を切って銭に替えることまでしたそうだ。

朝倉義景が織田信長に攻められたときは九頭龍川を挟んで、織田軍30万と、たった1万8千の戦いだった。敗走した義景は、犬山城に逃げたが、裏切りで一乗谷へ誘い出され殺された。

光秀は美濃から越前に敗走する際、身重の妻を背負って油坂を越えたそうだ。本能寺の変の後、長く反逆者の烙印を押されて来たが、奥さんを大事にするようないい人だった。3番目の娘は、細川家へ嫁いだガラシーシャだった。彼女は数奇な運命をたどっている。

## 第28回例会

開催日：平成27年4月30日（木）

参加者：80名

演題と講師：

(1) 「介護保険について（part2）」

講師 当会会員 中村 達夫氏

(2) 「新しい総合事業の実施に向けて」

講師 地域包括ケア推進課

課長 小寺 正樹氏

(3) 「介護サービスについて」

講師：医療法人 オレンジホーム

ケアクリニック院長 紅谷 浩之氏

(1) 中村氏の講演

今後の介護保険の仕組みは、自立支援、利用者本位、社会保険方式の3本立てで、高齢者を社会全体で支える仕組みづくりをしたことが特徴である。要介護者と認定された高齢者に対して、特別養護老人ホームや有料老人ホームな

どより、サービス付き高齢者住宅を増やしていくこと、在宅介護、在宅医療サービスを充実させていくこと、この介護サービスには、訪問介護、通所介護、短期入所があり、在宅医療サービスには、訪問リハビリ、通所リハビリ、往診、訪問介護、訪問歯科治療、訪問服薬がある。すなわち病院へ行かなくても在宅でサービスが受けられるようになる。要介護認定者のうち、要介護1から5に対しては、介護給付サービスが、要支援1, 2に対しては介護予防サービスが保険で受けられるようになる。

(2) 小寺課長の講演

H29年度までの介護保険料は、福井市は月6100円（10%アップ）、全国平均の月5514円より高くなる。高齢者は、社会に出なくなってしまうのが問題。通所介護は、専門の業者を指定して、バスで運んで機能訓練、運動を通じて身体の機能を維持する、趣味や語らいをするなど、従来の給付ではなく、事業をする形に変える。

よろず茶屋を積極的に作っていくのも施策の一つである。よろず茶屋の運営を担うのも、介護予防につながると考えている。

(3) 紅谷氏の講演

常時5人の医師を軸に、看護師13名、社会保険士4名で、要介護認定者の家を訪問し、診察、検査、治療を行っている。

## 第29回例会

開催日…平成27年5月28日(木)

参加者…87名

講師…拓殖大学名誉教授 田中 一昭氏

演題…わが漫画的人生

先生は、京大教育学部をご卒業の後、行政管理局に入省され、総務庁行政監察局長や、総理府行政改革事務局長などを歴任され、61歳で役所を退任された後、請われて拓殖大学の教授になられた。毎年卒業研究の学生10人を受け持ち、合計で100人の学生に卒論を書かせた。卒業生には、最後に「背筋を伸ばして歩こう。遠くが見える、将来が見える。卒業したら勉強しなさい」と話されたそうだ。現在は一昭会という勉強会を毎月やっており、メンバーは、卒業生は勿論、他大学卒の人や役人も参加する会になっている。テーマは、時代を切るとして、「大阪の都構想はなぜ負けたのか」などといった議論をしている。個人的に続けている週一冊の読書の本なども紹介している。宅急便(ヤマト運輸)を起業された小倉さんの伝記などはぜひ読んでもらいたい本だ。

土光臨調で土光さんは3公社(国鉄、電電公社など)、5現業(郵政、印刷など)の行政改革を進められた。当時83歳だったが、人の話をよく聞く方で、わからないときはわからん！わかるように説明せよと言われたり、若者と一緒には海老天などを頭から食べたたりする人だった。1981年からの第2臨調では、農林省関係の食管法の問題に取り組んだ。作ったコメは全量国が1トン30万円で買い上げる。倉庫に残ったコメは餌として1万6000円で売る。その結果、4兆円の赤字になっていた。

厚生省関係では、人口減対策が必要。結婚しない女性が増える現状では、人口減は必定だ、必要なのは家庭教育だ。日本はどう解決するのか世界が注視しているといえよう。選挙権を18歳以上に下げることでもいい。

現在国の借金は、1000兆円になっている。この問題の解決には、インフレしかなさそうだが、しかし、年寄りをいじめる方法になり、時限爆弾を抱えているような状態だ。

今から35年前、国鉄をどうするかが大きな課題だった。土光さんは3Kをやってくれと言われた。国鉄、米(食管法)、健康保険の3つのことだ。特に国鉄には、毎年7000から8000億円の補助金を出しており、これとほぼ同額の赤字を出していた。国鉄の分割民営化は中

曽根内閣で後藤田さんが担当した。JR東日本、東海、西日本および北海道の4社に分割した。この民営化は絶大な効果を上げた。今は、利益が出て税金を納めている。

民営化後のJR九州は鉄道だけでは赤字なので、鶏の飼育といったサイドワークをやるなどの努力をしている。ただ北海道だけは、課題が残っている。

現在、ボケ防止もかねて大学の監事の仕事をやっているが、これは執行役員の行動のチェックであり、問題があれば小さいうちに処理をするといった仕事である。監査役だけでなく、学校の先生などでもやるべきことをやらない責任を追及することも必要だ。

## 第30回例会

開催日…平成27年6月25日(木)

参加者…70名

講師…当会会員 塩谷 庸子氏

演題…保育一筋に天職を全うできた喜び

私は60年にわたる保育業務で3千人を超えるお子さんを世話し、最初に世話したお子さんは今や65歳にもなっている。父は鯖江36連隊に所属していたので、6歳までは鯖江に在住していた。その後東京に出て20歳まで過ごした。東京でお見合い結婚後、福井に戻り二人の子供

を得たが、二人を大学まで行かせるにはお金がかかるので、保母試験を受け、その資格を取ったのが、この仕事に就いたきつかけであった。

早速市役所へ行くと、運よく草の実保育園が仕事を始めたばかりで、そこで保母の仕事を始めた。園長さんは、児童福祉の専門家で県内の保育園の指導監査もしておられた大御所であり、この方のお蔭で60年間保育一筋にやつてこられたのだと思っている。当時の保育園は、国の補助も少なく個人の善意で運営されていた。幼児施設としての社会的評価も低く、幼稚園とは大きな差があった。しかし、学校に入学する子供に差があつてはならないと、保育園関係者が研修を重ねて懸命に保育内容の充実を図ってきた結果、民間保育園の数は12から百にまで増加し、幼稚園と並ぶ社会評価も受けられるようになった。

保育は、家庭と保育園が車の両輪のような役割を担って初めて目的が達成されるという理念の下、一日父母参加を実施したり、保育園で自立性を持たせるように心がけたりした。このほか、夏祭りや、年長児のお泊り保育など保護者が一緒に参加する機会も持つようにもした。60年間の保育では、子供の自宅が火災にあつたり、夫婦喧嘩で子供が犠牲になったりすることもある。嬉しかったことも多く、今では祖父

母として孫の入園に立ち会ったり、学校の先生になつて定年を迎えるようになっていくこと、以来60年間に亘つて年賀状をもらえること、自分も3200名もの園児を世話する間、大きなけがや事故もなく仕事を全うできたことなどがあげられる。

最後に、大切にしてきたことを3つあげると、(1)ちように良い女性になるようにと「庸子」という名前をつけてくれた父上の気持ち、(2)「相手の身になる心」を持つて保育してほしいと言われた園長の言葉、(3)保育は「周りを明るく照らし、ぬくもりをあたえ、万物を育てる力を持つ小さな太陽であれ」という保育の先駆者の言葉である。

### 第31回 例会

開催日..平成27年7月30日(木)

参加者..82名

講師..福井お話会代表 朽谷 洋子氏

演題..福井の言葉で福井の昔話を

講師 朽谷 洋子さんは現在なの花文庫・福井昔ばなし大学に所属しておられる。

昔話は、大人の話を子供も聴くようになったものだったが、次第に子供の中で生きることになった。昔話には祖先の知恵が入っている。

福井弁は言葉が汚いし、荒っぽいと言われていたが、かつて教えを乞うた先生に、福井弁は音楽的だいわれて誇りを持つようになり、優しく気持ちが穏やかになる言葉だと思う。先生は昔話や音楽は目に見えない無形文化財だともいう。

福井弁で話す昔話3つを紹介された。第1話は三国に伝わる「花さかじい」、第2話は勝山の「縁起かつぎばあさん」、第3話は嶺南地方の「さるむこ」である。

花さかじいは、白い子犬をわが子のように育てた爺さんが山へ行つたとき、子犬が「ここほんね」と鳴いたので掘つてみたら大判小判がたくさん出てきた。これを聞いた隣のばあちゃんが、自分も大判小判を掘りたいと子犬を借りて山へいった。しかし、がらくただけしか出てこなかった。怒って犬を殺してしまった。花さかじいは死んだ犬を埋葬し、そばに松の木を植えたところすぐ大きくなった。その木で杵をつくつて米をついたら大判小判が出てきたという。その杵を借りて隣の爺さんが米をついたら砂ばかり出てきた。怒って杵を燃やしてしまったのだが、花さかじいが灰をもらつて帰る途中、風が吹いて灰が飛び散り、枯れ木に花が咲いたという。そこへ殿様が通つて感心し、城内の枯れ木にも灰をかけてみよといわれかけ



ると見事花が咲いてご褒美をもらった。隣の爺さんがその灰をもらい、花を咲かそうとしたら、花は咲かず灰が殿様の口に入って牢屋に入れられたとか。

第2話は、縁起かつぎのばあさんが、縁起ばかり考えて行動する結果、大根の種まきが出来ず、その年は大根が食べられなかったという話。第3話は、田んぼに水は入らず、ものごとくなつて泣いていた爺さんが、近よつてきた猿に田んぼに水を入れてくれたら何でもやると約束、猿は嫁さんがほしいという。次の日、田んぼに水が入ったのを見て、猿との約束を守るため3人の娘に嫁さんに差し出さないといけないかとものごうなつた。長女も次女もいややと言つて逃げて行ったが、末娘は嫁に行つてもよいが、壺と鏡をほしいという。猿が迎えに来て、大きな橋を渡るとき、娘は石を投げて鏡を落としてしまったと嘘を言い、猿は壺を担いだまま川に入つて深みにはまり流されてしまったという話。

### 第32回例会

開催日…平成27年8月27日(木)

参加者…81名

講師…福井県消費生活センター

消費生活指導員 楯 郁代氏

演題…悪徳商法に気を付けよう

悪徳商法として挙げられたのは、(1)インターネットのワンクリック詐欺、(2)催眠商法(SF商法)、(3)健康食品、(4)内職勧誘、である。

ワンクリック詐欺は、インターネットの表示につられてうっかりアクセスすると、期限付きで登録費を請求され、入金するまでこの画面は消えませんと表示されるものである。焦つて30万円ほどの料金を払つてしまう人も多い。しかし、料金を払つてもこの画面は消えない。

SF(催眠)商法は、安い日用品などをごく安価で販売し信用させてから、高額な電子治療器(例)などを購入させるもので、一人あたりの被害額は、平均で170万円にもなるそう。

次は、健康食品の場合で、突然電話がかつてきて、体の不具合などないかと聞いてくる。どこか気になる症状などを漏らしてしまうと、いい薬があるので試供品を送つてあげるといふ。送つてきた試供品が切れる頃また電話があつて、結果はどうだったかと聞く。効果はないという、と、短期間ではだめで、数か月は飲んでみなさいと巧みに購入を誘ってくる。飲むとかゆみが出ると伝えると、それは効果が出ている証拠だ。かゆみを止める薬を上げようといふ、また別の薬を買わせる。いずれも効果などなく最後は鼻血まで出る始末。

これらは、心理を巧みに利用する悪徳商売である。健康食品には、単なる飲み物、特定保健用食品、栄養機能食品、機能性表示食品などがある。いずれも病気を治す薬ではないことに注意してほしい。食品広告では、効果を書くことが出来ないの、業者は体験談として効果を語らせるが、同じ人が名前を変えてあちこちで体験談を書いている例がある。

内職商法は、簡単な作業で大きな収益があるという勧誘に騙されるもの。

### 第33回例会

開催日…平成27年9月24日(木)

参加者…70名

講師…当会会員 大野 勉氏

演題…親子関係を育む方法 および

私の趣味はボケ防止

最初の演題である「親子関係の育みかた」については、在職中7年にわたる不登校生徒の指導に当たられた経験から、人間教育の大目標や生徒の問題行動出現の3大原因について、実例をもとにしたお話をしていただいた。

問題行動は、(1)家族構成や(2)環境に変化があった時、(3)青年期に差し掛かった時に、出現しやすい。問題行動を起こす生徒への対応としては、受容と共感が大事で、子供の

言うことを自分の見解を入れず、価値判断もせず、お説教もせず、その背景も読み取るように聞くことである。治そうとするのではなく、何を訴えたいのかを読み取ることが大切である。また、子供の長所を精一杯見つけてほめ認めてあげること、一番いけないのは、他人との比較や失敗を叱って注意し、劣等感を持たせてしまうことである」と話された。

人間は「主體的な存在」であるから、授業について、生徒が自ら学ぼうとしている時のみが勉強だという。秘訣は、「動きたくなる気持ちを起こさせること」、「認められたい」という気持ちが一番の欲求であると理解すること、自分で考え、行動し、責任を取れる子供として育成することである。

家庭は厳しいしつけの場でもあるので、悪いことをした子供には、真剣に叱るが優しさも必要である。まとめとして、NHK教育テレビ「心の時代」で放送された詩、「君は君でいいんだよ。君は君の花を咲かせるんだよ。ボタンのような大きな花もいけど、路傍の雑草の小さな米粒のような花もいよ。自分の花を咲かせなさいよ」を紹介された。

2番目の演題は、「私の趣味はポケ防止」で、ポケないよう頭を使っていることを覚えておくとのこと。例えば歴代の天皇、日本の百

名山、総理大臣、横綱、鉄道唱歌（東海道編）、オリンピックの開催地、干支や二十四節気などを、覚えることで、もう20年もやっておられるそう。きっかけは、退職後時間が出来たら、四国八十八か所の遍路、都都逸とパソコンを始めたかと思っていたが、遍路するうちにせめて遍路したお寺の名前ぐらいは憶えたいと思ったことだ。

いろいろなことを覚えていくうちに、大きな気づきがあった。たとえば、歴代の天皇の名前にしても、神武天皇即位（BS 660年）から26代の継体天皇即位（507年）まで、1167年の間に26人しかの天皇がいないので、一人が平均して45年も位にあつたことになる。といったことや、女性天皇が8人いて、同じ人名前を変えて2回天皇になっているといった不思議なことが分かったりする。継体天皇も二人の候補者の一人だったが、軍隊を率いて天皇の即位を頼みに行った時、もう一人の候補は、逃げて行ってしまったために即位できたことなどといったことが、わかってくる楽しみがある。

覚え方にもいろいろある。覚えてもすぐ忘れるので、枕元にファイルを持ち込んで、忘れたところを繰り返し覚える努力をしているとのことであった。

## 第34回例会

開催日…平成27年10月29日（木）

参加者…84名

講師…特定社会保険労務士 古道 實氏

演題…マイナンバー制度と年金について

マイナンバー制度は、すべての国民に12ケタの番号を付けて、行政が税、社会保険、災害の3分野で個人情報管理する制度である。この10月から、簡易書留で住民票記載の住所に送られるので、住所、書留の身（マイナンバーの通知書、個人番号カードの申請書など）を確認し、個人番号カードを申請すれば個人番号カードを受け取ることが出来る。

2016年からは、行政が個人情報を管理するほか、企業は源泉徴収票に記載し国に提出する。2017年度には、行政手続きで住民票が不要となり、ネットで税金や年金記録の閲覧や、納税や保険料の納付もできるようになる。さらに2018年には、銀行口座にもマイナンバーを登録（任意）、カルテや医療情報への利用も行われる。確定申告も、マイナンバーの記載がないと受け付けてもらえない。

この制度で、最も心配なのは個人情報の漏えいで、下手をすれば勝手に預金引き出されるようなこともありうる。

マイナンバー制度の導入により、脱税や生活保護の不正受給も防止できる。

講演後の質疑応答では、個人ナンバーの通知書の受け取りを拒否できるのか？個人カードは作らないといけないのか。などの質問、良い点としては、医療費の還付は申請しなくてもよくなる、自己財産が正確に把握できる、健康保険証としても使える、行政のコストが1兆円は軽減できるなどの話がいった。

### 第35回例会

開催日：平成27年11月27日（木）

参加者：70名

講師：当会顧問 寺岡 弘文氏

演題：人類に未来はあるか？ 日本の使命について

生命とは何か、人類の未来について考えると、(1) 天変地変による生命の誕生と絶滅の歴史、(2) 人為的環境の変化による人類の未来、(3) 社会活動・生活に係る問題、(4) 倫理感の喪失の問題、と大きく四つに分けられる。人類の未来を懸念するが、どう対処するかは、それぞれが考えるべきものである。

まず、(1) の天変地異と生命の誕生・絶滅の歴史では、地球上で最初の生命が誕生したのは、今から38億年まえと考えられており、天変

地異による種の絶滅、誕生を経て現在の哺乳類の時代が到来した。過去には、2億年前に1億5000万年も続いた恐竜の時代があったが、直径約15kmの惑星の落下によって土埃が地表を覆い、植物の生育不良、草食動物の死滅、肉食動物の死滅と連鎖して恐竜も死滅した。その時、鼠のような哺乳類が生き残った。

氷河期も何度かあって、7億年と、29億年前には、地球全体が氷結した時期があり、その時は、海底の生物だけが生き残った。火山の大噴火、大地震などいつ起きるかわからないし、現在の地球温暖化も人類の未来に影響を及ぼすかもしれない。

(2) の人為的環境の変化については、温暖化による南極の氷の融解による主要都市の洪水、北極の氷床の消失による白熊の生存危機が現実味を帯びている。原子爆弾や原子力にも、放射性物質の拡散の心配がある。遺伝子にあるDNAが、難病の発生と関わっていることから、受精卵の状態でDNAを操作し、悪い疾患の遺伝子をなくしてしまうといった技術が開発されている。それが暴走すると、好みの人間だけを作るといった人間の命の根源を操作するようなことも起きるかもしれない。逆にそれが人類の滅亡の危機になるかもしれない。

(3) 社会活動・生活に係る問題では、日本の1000兆円の借金の問題、安倍政権のインフレ政策の問題、少子高齢化の問題などがある。この借金は日本の通貨による債券なので、お札を増刷すればよく、問題ではないと考える。实体经济を必ずしも反映していないインフレ政策も成功するかどうか疑問だ。高齢者は、孫の時代のことも考えてあげないといけないのではないか。若い人が結婚できるようにすること、子供や孫がいないと、老人もいきいきと暮らせない。みんなで考えないといけない。

(4) 倫理観の喪失の問題は、企業にも、社会にも、個人にも増えている。隣国とのいがみ合い、くい打ちの不正、自動車排気ガスの不正検査、東芝の不正経理、小保方氏の論文ねつ造・改ざんなど研究分野での不正など、大事件が起きている。闇金、振り込め詐欺の被害が少なくならない。騙されてはいけない。国同士の関係でも、悪意を持つてはいけない。

日本は、いつ建国したのか？西暦紀元前660年という説もあるが、日本書紀のあとの続日本紀には、大宝元年（701年）に元号を新たに建てたという記述があるので、この年が日本の建国と言えるのではないか。

これからの日本はどうなっていくかについては、「エクサスケールの衝撃」という本が参

考になる。コンピュータの発達で、一秒間に100京（京は、兆の1万倍）の計算ができるものを開発できるようになる。悪用されると大変なことになるが、倫理的にも、技術的にもやれるのは、日本だけだ。

### 第36回例会

開催日…平成27年12月24日（木）

参加者…82名

講師…当会相談役 濱田 芳雄氏

演題…戦前・戦中・戦後を生き抜いて

私は、大正12年北海道生まれの93歳で、昭和9年に福井に来ました。生まれた土地北海道は、当時石炭ブームの中にあつた。石炭は黒いダイヤとも言われていたが、人々は極貧の状態で、物も食べ物も衣類も、履物にも事欠き、住まいは長屋であつた。当時落盤事故もあり、多くの工夫が亡くなった。

私の父は炭鉱会社の社員だったので比較的良好暮らしだったのだが、腎臓病を患って働けなくなり、会社も辞めることになった。転居した福井は、絹織物の産地で、女性の多くは機屋に勤めよく働いた。

戦争の始まりは、昭和6年9月18日、10時30分に起きた満州の柳条溝事件だった。満州鉄道を中国が攻撃し、日本が応戦し、中国の一部を

占領した事件だ。次いで昭和12年7月の蘆溝橋事件。夜間訓練中に中国の鉄砲の弾が飛んできた。これが戦争の始まりというが事実ではない。日本は明治29年3月27日に旅順、大連の租借権を得ていた。当時の中国は、清であつた。明治33年、列国義和団事件でロシアが満州を占領。明治37年2月10日に、日本はロシアに宣戦布告して、旅順を奪回。ロシアと講和条約を結んだ。満州鉄道は、ロシアの権利を日本が引き継いだものである。そこへ関東軍が入った。そして、昭和7年に満州国の樹立を宣言し、第一次の移民団を送った。

満州にわたった若者たちは苦勞して荒地地を開拓していった。関東軍は、その満州を準備していた。その関東軍が夜間訓練をしていたところへ、中国が攻撃をしてきたのが始まりだ。

以前、第11回の例会でも戦争体験の話をしたが、もう一度触れておきたい。私は敦賀の連隊に入隊した後南方に派遣されることになったが、その前夜就眠中に上等兵らが、「現地はもっと大変だ。生きて帰ってこいよ」と握手をしてくれたのには感激した。翌日シンガポールへ向かった。それから、まきを燃やして走る汽車でタイ、ビルマ、マンダレーと移動し、インパール行きとビルマ行きに分かれた。

私が行ったインパールは、中国からビルマへの物資の輸送を阻むのが役目であつた。私は銃撃で足を負傷、止血中に気を失ったが、運よく衛生兵に発見されて野戦病院には運ばれて助かった。戦友は激戦でほぼ全滅だった。

私はビルマで終戦を迎え、英国軍の捕虜となつたが、バンコックから帰国することが出来た。戦後の福井での生活は、米、お酒が切符制。働け働けの時代だった。私は酒伊織維に就職し、人事、総務部長を歴任。みんな一生懸命に働いた。残業138時間の人もいた。このような先人の歴史の上に今日がある。

### 第37回例会（新年会）

開催日 平成28年1月28日（木）

今回は、第3回の新年会を行いました。

### 第38回例会

開催日…平成28年2月25日（木）

参加者…67名

講師…福井県立大学教授 南保 勝氏

演題…福井地域学のすすめく内なるグローバル化への対応を目指して

北陸3県の活性化を見ると、福井の存在感が薄く活気がないと感じられる。原発問題、新幹線の金沢開業、全国より早い人口減少などがそ

の理由である。今、福井に必要なのは、福井の魅力、強み、宝を見つけ出して、福井の誇りやプライドを醸成することだ。

最近の経済情勢を見るとときには、大企業では緩やかな回復基調が続いてきた。供給面では、リーマンショック以来回復基調にあり、需要では、スーパーの食品需要や中国人の爆買いは良いが、地方はだめだ。総合判断でも景気動向指数は緩やかな回復となっている。福井の歴史を振り返ってみると1881年に福井県が誕生し、その後北前船が活躍したが、産業は、全国の約2.1%だったのをはじめとして、釘や鎌など金属加工技術が高い日本有数の県であった。しかし、現在の福井県の経済規模は、41位の0.65%に過ぎない。人口の動向は、今後2040年までに福井は21.5%の減少、全国平均の16.4%を超える減少が予測されている。人口4000人当たりの事業所数だけは、全国一位。しかし、これは繊維など分業ができたからである。技術力の高さは、機屋の運転技術で器用な人が多かったのと、工業技術支援センターの貢献、下請け企業だからこそできた技術の高度化によるところが多い。

福井県の労働を見ると、男は粘り強く、女は働き続ける傾向がある。グローバル化では、県内企業の海外進出は145社(うち100社は

中国)。TPPは12か国が参加して作った国のようなもので、その経済規模は世界貿易の40%に達する。経済効果は14兆円で、GNPを2.6%押し上げる。アメリカとどのようにやっていくかが課題である。

TPPでは田舎にもグローバルの風が吹く。これまでも、規制改革で米屋、薬屋、酒屋など500万社にも及ぶ中小企業がなくなり、日本の社会システムを壊してきたが、食料自給は30%を割り、食の安全にも影響が出るので、対策が必要である。

最後に福井人に求められることは、壊れた経済社会システムの立て直し、リセットして再スタートを切る覚悟をすること、地域全体が独自の企画力、構想力、ビジョンを養い育てること、そのための域内ネットワークの再構築である。

### 第39回例会

開催日…平成28年3月31日(木)

参加者…83名

講師…元大阪大学歯学部准教授

寺岡 文雄氏

演題…歯科材料から見た歯のお話し

講演は、歯の基礎知識、疾患、補綴物、歯科材料、治療の希望、研究成果、後悔しないために の順に話された。

歯の基礎知識では、切歯、第1第2臼歯からなる歯の基本配置や内部歯の構造の説明、フッ素による歯の安定化、歯を溶かす酸、唾液の効果について説明された。歯の様々な疾患については、虫歯、歯周病、顎関節症、口腔癌のお話をされた。虫歯は再生できないので修理するだけ、歯周病はぐらぐらするのを固定して歯槽骨を再生させることも可能である。顎関節症は、顔がゆがむこともあり、肩こり、めまい、食欲不振、アルツハイマーなどを併発することがある。口腔癌にはタバコが悪い。

補綴物は、傷んだ歯や抜けた歯の治療のための修復物で、インレー(詰め物)、クラウン(かぶせ物)、ブリッジ入れ歯などがある。差し歯は虫歯で、歯の上の部分が失われた場合、残った歯の根の部分に金属や複合材料でできた土台を入れて被せ物をする治療のことで、自分の歯の根を残せる利点があるものの、金属製の土台は、入れた歯を破折させることもあるので、ファイバーコアが良い。オールセラミック修復物もあるが、これはきれいで耐食性、耐熱性が高いが、成形はむづかしく、高価である。

入れ歯には、床と呼ばれる、歯ぐきに密着させる部分の材質によって、金属床義歯、レジン床義歯などがある。一般的な金属床義歯は、強くて長持ちするなどの特徴があるが、高価で金

属イオンが出てアレルギーになったりすることがある。これに対し、レジンで作られるレジン床義歯は、保険適合であるが、破折が起こりやすい欠点がある。入れ歯は熱湯で消毒すると変形する。

氏が開発された重合システムで製作した義歯（生体機能義歯）は適合性が良く、クラスプなどの金属を使用しない患者さんに優しい義歯である。インプラントは、脳への信号伝搬や衝撃を吸収する歯根膜がないのが欠点である。歯が抜けた所に生体機能義歯を入れると健全な歯を削ったり他の歯に負担を掛けたりしないため良い。

前歯であっても、金属の见えない白い歯の治療が保険で可能である。氏は、生体機能義歯の普及活動を進めておられ、最近保険でも適合性が優れた義歯が作製できる重合システムも開発された。

